

2019年5月9日

各 位

会 社 名 ニッコー株式会社
代表者名 代表取締役社長 三谷 明子
(コード番号 5343 名証第2部)
問合せ先 取締役サービス本部長 布川 一哉
(TEL. 076-276-2121)

連結業績の前期実績値との差異に関するお知らせ

本日付「2019年3月期決算短信〔日本基準〕(連結)」で公表した2019年3月期(2018年4月1日～2019年3月31日)の連結業績につきまして、前期実績値(2018年3月期(2017年4月1日～2018年3月31日))との間に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

なお、当社は当該期間に係る業績予想を公表していないため、増減につきましては実績値との比較になっております。

記

1. 2019年3月期通期連結業績の前期実績との差異

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績値(A) (2018年3月期)	13,963	222	216	160	6円87銭
当期実績値(B) (2019年3月期)	13,741	131	180	134	5円76銭
増減額(B-A)	△222	△91	△36	△26	
増減率(%)	△1.6	△41.1	△16.8	△16.2	

2. 差異の理由

売上高は、機能性セラミック商品事業および陶磁器事業における増収の一方で、主に住設環境機器事業における浄化槽販売が減少し、前期実績を下回る結果となりました。

営業利益は、陶磁器事業の赤字幅縮小、住設環境機器事業における外注加工費およびクレーム費などの経費削減が利益上昇要因となったものの、全社的な材料費、電力費および人件費の増加が利益減少要因となり、減収を補うには至らず、前期実績値を下回る結果となりました。

経常利益は、為替差益の発生が利益上昇要因となったものの、上記の利益減少要因が影響し、前期実績値を下回る結果となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益は、関係会社株式売却益の計上が利益上昇要因となったものの、上記の利益減少要因が影響し、前期実績値を下回る結果となりました。

以 上